

北海道教育委員会教育長 様

北海道千歳北陽高等学校長 渡 辺 晃 史 印
次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 基本的生活習慣の定着
(2) 基礎学力の定着・向上
(3) 進路指導の充実
(4) 生徒会活動・部活動の活性化

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
基本的生活習慣の定着	入学者数の減少に比して遅刻者数の増加が見られるが、内訳として、中学時に欠席の多い生徒や体調不良を訴える生徒が多いことから、個々の状況に応じた支援が必要である。 遅刻の背景にある状況把握のための面談やスクールカウンセラー等との連携による心身の健康状態の把握と支援、中学校との連携強化など、具体的な対応策を講じていく。	保護者アンケートでは、「本校のルールが厳しい」という意見と、「生徒の自主性を求める」意見が寄せられた。これは、画一的なルール適用に対する懸念と、生徒一人ひとりの状況に合わせた柔軟な対応を求める声であると考えられる。個々の生徒の状況を考慮し、個別面談やカウンセリングを通して状況把握と支援を行い、基本的生活習慣の定着を図っていく必要がある。
改善方策	生徒指導提要在示す「発達支持的生徒指導」の実践を通した生徒の健全な発達支援	
基礎学力の定着・向上	1年次に実施している「ベーシックスタディ」に対する生徒の評価は高いものの、基礎力診断テストの結果からは、基礎学力の定着・向上に課題が残る。 学力分析に基づき、生徒一人ひとりの学習状況や理解度に合わせた「個別最適な学び」を推進し、少人数指導やICTを活用した学習支援などを行うとともに、生徒の主体的な学びを促すための「授業改善」に取り組む、基礎学力の定着・向上を図る。	保護者からは、生徒の基礎学力向上に対する大きな期待が寄せられている。その期待に応えるため、生徒一人ひとりの学習状況に合わせた「個別最適な学び」と、主体性を育む「授業改善」に注力する必要がある。 授業評価アンケートを全教職員で実施し、その結果を授業改善に繋げる取り組みも進めており、学校全体で、生徒が主体的に学ぶ環境を構築し、基礎学力の確実な向上を目指していく。
改善方策	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	
進路指導の充実	生徒の多様な進路希望に対し、適切な助言と指導に努め、高い進路実現率を達成しているものの、3年生の「進路指導の充実」に係るアンケート結果が低いことや、進路未決定者への対応に課題が残る。 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」を核として、キャリア発達の促進を図るとともに、情報提供の強化、進路選択に関する相談体制の充実に努める。	地域企業との連携は、生徒の進路実現に具体的な成果を上げている。一方で、保護者からは、工業分野に限らず、多様な企業・団体との連携を広げ、生徒一人一人の多様な進路希望に対応できる進路指導の充実を求める声が寄せられている。地域連携の成果を活かしつつ、情報提供の強化や相談体制の充実に図り、生徒の多様な進路希望に対応する必要がある。
改善方策	生徒一人一人のキャリア発達の促進とキャリア・カウンセリングの充実	
生徒会活動・部活動の活性化	生徒会活動は教員主導の傾向が強く、生徒からの自主性を求める声に答えられていない。部活動においては、設置数は多いものの加入率が低く、生徒・保護者・地域のニーズとの間にギャップが見られる。 生徒の主体性を尊重した生徒会活動への転換を図るとともに、地域人材や施設を活用した地域連携による部活動の活性化を図る。	教職員の働き方改革が求められる中、多様な生徒のニーズに答えられていない現状に対して、改善を求める声が寄せられている。 生徒が主体的に生徒会活動等を活性化できるように支援するとともに、今後の学校運営協議会の設置に伴い、地域の団体等との連携を強化し、生徒・保護者・地域の方々のニーズに応える部活動の在り方を構築する必要がある。
改善方策	生徒が主体的に取り組む生徒会活動への転換と持続可能な部活動の在り方の構築	
公表方法	ホームページへ掲載 次年度の学校運営協議会での資料提示	

3 添付資料

- ・「学校評価」の集計結果（教職員・保護者・生徒）
- ・学校課題を改善するためのアンケート結果（保護者・生徒）
- ・学校評議員のコメント